



揖斐川に咲く春の花だより

大垣市三本木地先

- 春真っ盛りの今、揖斐川堤防を車で走りますと、赤、白、黄、青色の花たちが堤防一面に咲き誇る情景が目飛び込んできます。この時期に観られる‘春の花’を紹介します。

① セイウカラシナ(西洋芥子菜)

科名 : アブラナ科アブラナ属

学名 : *Brassica juncea*

分布 : 西アジア原産の2年生草木。日本へは中国より弥生時代に渡来したと言われている。各地の荒地や河川敷、土手などに野生化し、時には河原一面に群生する。

名前の由来 : 辛い菜のことで、漢名の芥(がい)とは、界のことを現わし、「汗を発し気を散じ我を界する」という意味がある。

花期 : 4月～5月

花言葉 : 「無関心、冷談」



② オオイヌノフグリ(大犬の陰囊)



大垣市三本木地先

科名 : ゴマノハグサ科クワガタンウ属

学名 : *Veronica persica* Poir.

分布 : ヨーロッパ原産の帰化植物で、明治初期に渡来し、畑や河川敷などで普通に見られる越年草。

名前の由来 : 果実の形が犬の陰囊の部分(フグリ)に似ているから。

花期 : 3月～5月

花言葉 : 「清らか」「信頼」「忠実」

③ ハルジオン(春紫苑)

科名 : キク科ムカシヨモギ属
学名 : *Erigeron philadelphicus*
分布 : 北アメリカ原産の多年草。大正時代に渡米したと言われる。初め観賞植物として輸入し、東京で栽培していたものが野に逃げ出し、戦後急速に都市周辺を中心に各地に広がっていった。

名前の由来: 秋に咲く野菊の仲間のシオン(紫苑)に似て花が美しく、春に咲くことから。

花期 : 4月～6月

花言葉 : 「追想の愛」



大垣市三本木地先

一部の地域では、別名「貧乏花」と呼ばれており、折ったり、摘んだりすると貧乏になってしまうと言われる。貧乏花の由来は諸説あるが、「どんな貧乏な家の庭にも生える」「手入れをされた庭には生えず、手入れの行き届かない貧乏な家の周囲に生える」など。



ヒョウモンチョウ

④ ノアザミ(野薊)



大垣市三本木地先

科名 : キク科アザミ属

学名 : *Cirsium japonicum*

「Cirsium(ギリシウム)」とは、ギリシャ語のKirsion(静脈拡散)からきている。

分布 : 北海道を除く、日本各地の草原や河川に、もっとも普通に見られる多年草。

名前の由来: 古語でアザミの葉のようにちくちく痛いことを「あざむ」と言っていたことから転訛したと言われている。

花期 : 5月～8月

花言葉 : 「権利」「私をもっと知って下さい!」



若い葉や茎は食用にされ、根を干したものは健胃・利尿・神経痛などに処方される。鋭いトゲは、草食動物による食害から身を守るためだと考えられている。

⑤ マツヨイグサ(待宵草)



大垣市馬の瀬地先

科名 : アカバナ科マツヨイグサ属

学名 : *Oenothera stricta*

分布 : 南アメリカ原産の1年草。夕方になると鮮やかな黄色の花を開くが、翌朝には萎んでしまい、色も黄色から赤（オレンジ）に変わる。

名前の由来 : 漢字では「待宵草」と書き、宵を待って花が咲くというので付けられ名で、朝顔や夕顔と同じように開花時刻に因んだ命名。

花期 : 5月～8月

花言葉 : 「ほのかな愛」「移り気」「協調」



松宵草は、時より、「(宵待草) ヨイマチグサ」と呼ばれることがあるが、これは大正ロマンを代表する竹久夢二の「宵待草(よいまちぐさ)」という詩のためである。

『待てど暮らせど来ぬ人を 宵待草のやるせなさ
今宵は月も出ぬさうな』

⑥ ムラサキカタバミ(紫片喰)



大垣市三本木地先

科名 : カタバミ科カタバミ属

学名 : *Oxalis articulata*

分布 : 南アメリカ原産の多年草。観賞用に栽培されていたものが、関東地方以西に広く野生化。

名前の由来 : 紫色の花を付けるカタバミ

花期 : 3月～11月

花言葉 : 「輝く心」「喜び」



テントウムシ



多様な河川空間を醸し出す川風景

輪之内町福東地先

⑦ キショウブ(黄菖蒲)

科名 : アヤメ科アヤメ属

学名 : *Iris pseudacorus*

分布 : 西アジアからヨーロッパが原産地で、日本に入ってきたのは明治時代。今では、各地に帰化し、水辺や湿地に生える。

名前の由来：黄色い花の菖蒲

花期 : 5月～6月

花言葉 : 「幸せを掴む」「私は燃えている」



湿地帯の水辺でくつろぐチョウサギ

⑧ ノイバラ(野茨)

輪之内町福東地先



科名 : バラ科バラ属
学名 : *Rosa multiflora*
分布 : 日本原産のツル性低木。ウマラ(茨)、ノバラ(野薔薇)とも呼ばれている。夏には白い花を咲かせ、秋には赤い実を付ける。俳句では夏の季語とされている。河原や道端の咲くがバラ科のため茎にはトゲがあるため、触る際には注意が必要。

名前の由来 : 野に生える「茨」という説や、ノイバラの古名はウマラ(ウバラ)で万葉集に由来するという説がある。*Rosa* はギリシャ語のバラや、ケルト語の *rhodd* 「赤色」が語源。
multiflora は「多数の花が咲く」という意味。

花期 : 4月～5月

花言葉 : 「素朴な愛、無意識の美」



⑨ ニワゼキショウ(庭石菖)

安八町牧地先



科名 : アヤメ科ニワゼキショウ属

学名 : *Sisyrinchium atlanticum*

分布 : 北アメリカ原産の多年草で、明治時代に鑑賞用として持ち込まれたものが各地で野生化。

名前の由来 : 庭に生えるセキショウ(石菖)

花期 : 5月～6月

花言葉 : 「繁栄」「豊かな感情」「豊富」



⑩ チガヤ(茅)

輪之内町福東地先



⑪ カタバミ(片喰)



安八町牧地先

科名 : カタバミ科カタバミ属

学名 : *Oxalis corniculata*

分布 : 日本全土で、ごく普通に見られる多年草で、畑や道端、河川敷などで生息。

名前の由来 : 葉が夜になると三小葉を閉じることから、その様子を横から見ると葉が喰われて欠けているように見えることから。

花期 : 4月～7月

花言葉 : 「輝く心」「喜び」「母の優しさ」

⑫ コマツヨイグサ(小待宵草)



大垣市馬の瀬地先

科名 : アカバナ科マツヨイグサ属

学名 : *Oenothera laciniata*

分布 : 北アメリカ原産の2年草で、明治時代に鑑賞用として持ち込まれたものが各地で野生化。

名前の由来 : 待宵草の中でも花が小さいことから。

花期 : 6月～11月

花言葉 : 「物言わぬ恋」「浴後の美人」

⑬ ホトケノザ(仏の座)



大垣市三本木地先

科名 : シソ科オドリコソウ属

学名 : *Lamium amplexicaule*

分布 : 東アジア、ヨーロッパ、北アフリカに広く分布する越年草。北海道を除く、日本全土で見られ、畑や道端などで生息。春の七草のホトケノザは本種ではなく、キク科コオニタビラコである。

名前の由来 : 四角い茎を中心にして向き合うように対生する葉が、ちょうど仏様が座る蓮華座を思わせる形をしていることから。

花期 : 3月～6月

花言葉 : 「調和」



⑭ オオキンケイギク(大金鶏菊)



大野町公郷地先

科名 : キク科ハルシャギク属

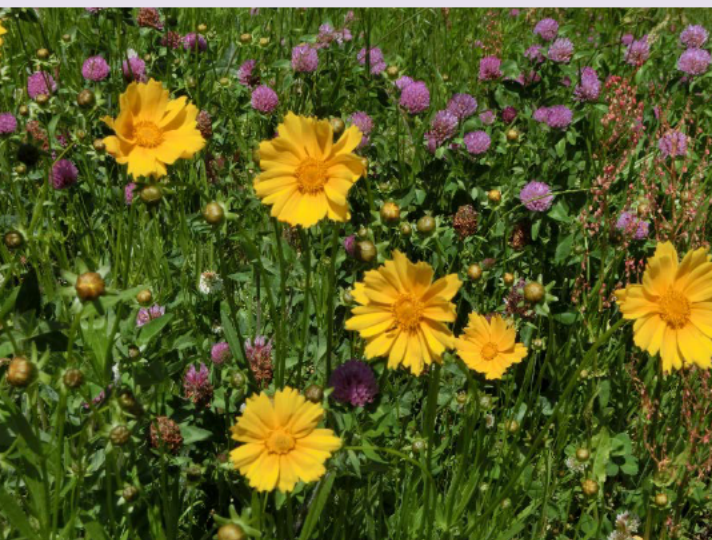
学名 : *Coreopsis lanceolata*

分布 : 北アメリカ原産の多年草で道端や河原などでよく見掛ける。日本には1880年代に鑑賞目的で導入。

名前の由来: 花冠が黄金色で、形が鶏のトサカに似ていることから。

花期 : 5月～7月

花言葉: 「いつも明るく」「きらびやか」



⑮ マツバウンラン(松葉梅蘭)



大垣市三本木地先

科名 : ゴマノハグサ科ウンラン属

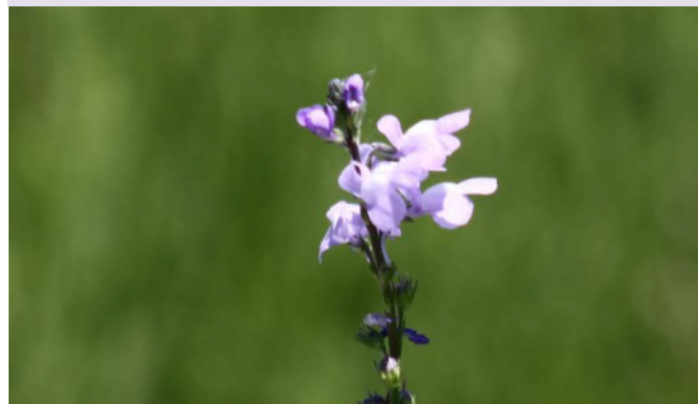
学名 : *Linaria canadensis*

分布 : 北アメリカ原産の越年草で道端や河原など日当たりの良い場所で見掛ける。

名前の由来: 花が梅蘭(ウンラン)に似て、葉が松葉のように細いことから。

花期 : 4月～6月

花言葉: 「輝き」「喜び」



※出典

- ①本資料の写真は、平成26年5月中旬、揖斐川出張所が撮影したものです。
- ②植物の諸元等は、「日本の野草」等より引用
- ③花言葉は、「花言葉辞典、植物図鑑」より引用

オオキンケイギクは「特定外来生物」です！

・オオキンケイギクは、その極めて強い生命力から、日本古来の在来種に悪影響を与える恐れがあるため、平成18年2月、外来生物法により「特定外来生物」に指定され、防除の対象となっています。このため、国土交通省では、これ以上、生息地域を広げないため、刈り取り後、焼却処分を行うなど、法律に基づき、適切に処分を行っています。

日本古来の自然を守ろう！



オオキンケイギクの除草作業の実施 (平成26年5月22日)